

交付金の活用事例

- ▶事業種類: 交流促進事業・地域情報の発信
- ▶事業名: 海士町情報発信強化事業
- ▶R3年度事業費: 3,036千円(うち国費1,518千円)
- ▶事業実施主体: 海士町

▶事業概要: 関係人口(海士町のファン)に特化して、距離が離れていてもSNSを通じてつながり、海士町との関係性をより深いものにすることが目的。SNSそれぞれの特性を活かした積極的な島外への情報発信を強化し、島へ行かなくとも海士町の情報を得やすい環境と、来島だけではない多様な関わり方の発信を強化する。

- ▶事業の成果目標: SNS総友達数(フォロワー数)⇒2,506人
- ▶R4年度以降の予定: 引き続き島外発信に関わる町内事業者との定期的な協議及び、情報発信体制の強化を行う。また、海士町LINE公式アカウント以外のSNSの活用等も検討する。

事業の効果

- ・海士町LINE公式アカウント友達数→2,817人
(R4年6月末時点)
- 人口登録者比率 **全国 1 位**

活用事例の写真

海士町LINE公式
アカウント



オンライン交流会の様子
(オンライン直会)



事業実施にあたり工夫した点

- ・公式LINEの取り組みを発信して利用者と直接触れあうためのオンライン交流会を開催した。
- ・慣れていないとわかりづらいアクセス情報の発信や海士町観光協会に観光予約・問い合わせをできるようにするなどLINEの機能強化を図った。

海士町 離島活性化交付金の活用事例②

交付金の活用事例

- ▶事業種類: 定住促進事業・定住誘引事業
- ▶事業名: 海士町シェアオフィス整備事業
- ▶R3年度事業費: 41,228千円(うち国費20,614千円)
- ▶事業実施主体: 海士町

▶事業概要: 新型コロナウイルスの影響もあり、都市部でリモートワークを行っている企業の人材が移住し、島内でリモートワークを行う事例が増加。このため、都市部の人材向けのシェアオフィスとして空き倉庫(遊休施設)の改修を行い、リモートワークの受入を促進することで海士町での短期滞在を促し、ひいては海士町への移住・定住にもつなげていく。

- ▶事業の成果目標: 島外からのリモートワーク利用者数 4人
- ▶R4年度以降の予定: ホームページ等でリモートワーク施策の情報を発信するとともに、島外からの利用希望者を募集する。

事業の効果

令和4年6月現在、東京の企業人2名が当施設においてリモートワークを行っており、都会の仕事で離島で行うという企業人の短期滞在における新たな働き方モデルができつつある。

活用事例の写真

【シェアオフィス外観】



事業実施にあたり工夫した点

- ・美しい海が一望できる、また木造による温かみのある造りなどにより、都会にはないオフィスとしたところ
- ・交流の生まれるオープンスペースと、本社との遠隔会議ができる個室スペースを用意しており、リモートワークしやすい職場環境に配慮したところ

西ノ島町 離島活性化交付金の活用事例

交付金の活用事例

- 事業種類: 安全安心向上事業・防災機能強化事業
- 事業名: 防災行政無線(同報系)デジタル化事業
- R3年度事業費(繰越): 339,416千円(うち国費169,708千円)
- 事業実施主体: 西ノ島町

➢ 事業概要: アナログ防災無線等のデジタル化や各家庭及び主要施設への情報配信装置などの整備を行うことで、非常時の情報収集、伝達能力の強化を図り、もって島民の安心安全を確保する。

- 事業の成果目標: デジタル化による様々なメディアへの情報伝達のワンオペレーション化の実現。個別受信機1,600台の全戸配置(内訳: 住戸用1,532台+公共施設・事業所用68台)
- R4年度以降の予定: デジタル化の整備及び受信機の管理

事業の効果

防災行政無線設備のデジタル化による様々なメディアへの情報伝達のワンオペレーション化が実現。戸別受信機の全戸配備完了

活用事例の写真



個別受信機



事業実施にあたり工夫した点

・高齢者等が使いやすい受信機とするべく、従前個別受信機と操作等において同じものとなるよう仕様や操作説明などの調整を行った。

知夫村 離島活性化交付金の活用事例①

交付金の活用事例

- 事業種類: 定住促進事業・流通効率化施設等整備事業
- 事業名: 知夫村水産物加工冷凍施設整備事業
- 令和元年度事業費: 10,092千円(うち国費5,046千円)
(令和2年度事業費: 388,628千円(うち国費194,314千円))
- ※繰越事業R3.7完了
- 事業実施主体: 知夫村

➢ 事業概要

流通の効率化を図るため、急速冷凍庫、各種冷凍冷蔵庫保管庫、燻製・缶詰・レトルト・乾燥設備を備えた水産加工冷凍施設を島内に整備する。

- 事業の成果目標: 水産加工冷凍施設における雇用の創出
- 令和3年度以降の予定: 加工場の稼働を開始し、島内の水産物を加工し、年間を通じ安定的に島内外へ供給する体制を構築する。

施策の効果

・R3年度雇用者数: 3人

活用事例の写真

【水産物加工冷凍施設】



事業実施にあたり工夫した点

・一部鮮魚についても本施設でまとめて買い取り、高価格帯での販売が可能な首都圏の事業者等への出荷を計画(漁協を通じた取引を予定)

知夫村 離島活性化交付金の活用事例②

交付金の活用事例

- 事業種類: 定住促進事業・定住誘引事業(施設整備)
- 事業名: お試し移住体験情報発信及び施設整備事業
- 令和3年度事業費: 13,931千円(うち国費6,965千円)
- 事業実施主体: 知夫村

➢ 事業概要

移住者の受け入れ体制が整ってきた中、移住の決断を後押しできる施策として3日～2週間の短期移住体験ができる設備を整備する。また、知夫の情報発信として、知夫の魅力を広めるための各種イベントへ参加する。

- 事業の成果目標: 本事業期間におけるUターン者数の累計人数(45人)
- 令和4年度以降の予定: WEBサイトでお試し体験の募集。また、Uターン希望者へ施設を貸し出し、交流の場として利用する。

活用事例の写真



エントランスと
共用スペース



正面外観



施策の効果

- ・都市部から移住体験に来た2名が施設を利用し、両名とも移住。

事業実施にあたり工夫した点

- ・20代が多く利用する求人媒体を使って地域おこし協力隊員を募集。Web面談の際に移住体験を紹介した。
- ・実際に施設で暮らした体験者に離島生活のリアルな情報をYouTubeなどで発信。

隠岐の島町 離島活性化交付金の活用事例①

交付金の活用事例

- 事業種類: 定住促進事業・定住誘引事業(定住情報の提供)
- 事業名: 隠岐の島町移住定住魅力化事業
- R2年度事業費: 2,699千円(うち国費1,349千円)
- 事業実施主体: 隠岐の島町

➢ 事業概要

移住者同士の交流を図るイベントの実施や、移住体験プログラムの造成、住まい確保事業、情報発信事業等により、定住者の確保と移住者増加を図る。

- 事業の成果目標: お試し移住体験プラン参加者からの移住者世帯数(3世帯)(R3年)
- R3年度以降の予定: これまでの成果を踏まえ、引き続き実施予定。

活用事例の写真

- 【移住定住ガイドブック】
移住者向けガイドブックの
作成による情報発信



施策の効果

- 令和2年度 お試し移住体験プラン参加者4世帯のうち、1世帯の移住に繋がった。

事業実施にあたり工夫した点

- ・お試し移住体験プランの中で、既移住者との交流機会を設け、移住に対する不安払拭をはかるとともに、既移住者同士の交流により、定住の促進を図る。

隠岐の島町 離島活性化交付金の活用事例②

交付金の活用事例

- 事業種類: 定住促進事業・交流促進事業(施設整備)
- 事業名: 隠岐の島町定住促進空家住宅整備事業
- R3年度事業費: 296,040千円(うち国費148,020千円)
- 事業実施主体: 隠岐の島町

➢ 事業概要

賃貸住宅事情がひっ迫している本町において、令和2年度に用途廃止によって空家となる県職員宿舎を改修し、定住希望者向けの住宅と定住人口の確保を図る。

➢ 事業の成果目標: 7割の入居の確保

➢ R4年度以降の予定: 引き続き住宅の整備を行うとともに、入居者の募集や入居を開始して移住・定住の促進を図る。

活用事例の写真

(改修前)



(改修後)



施策の効果

- ・改修工事が完了。Uターン者の受け入れが可能になった。

事業実施にあたり工夫した点

- ・若者がより使いやすい住宅を目指して古い和式の内装をすべて洋風化して改築を行った。

海士町 雇用機会拡充事業の取組事例①

体験型観光の受入・島の特産品を活用した商品の開発

事業内容等

- 事業実施年度：平成30年度～令和3年度（計画）
- 事業実施者：個人事業主（店名：島のほけんしつ「蔵 Kura」）
- 事業内容：昔からある蔵を改修して、セラピストが地元福祉施設と連携した予防療法を行う施設を開設し、コミュニティスペースの整備による体験型観光の実施及び島の資源（ひのき・クロモジ等）を活用した精油・石けんなどの商品開発を行う。

交付金の主な用途と雇用実績

○交付金の用途

- ・コミュニティスペースを導入するための設備費・改修費
- ・島の資源を活用した商品の研究開発費（精油成分分析、試作品製作）
- ・新たな雇用者の人件費

○雇用実績（令和4年3月末時点）

- ・2名（創業者本人、知人の紹介）

事業実施状況、導入設備等

【足浴による予防療法をしている様子】



【アロマ作りワークショップの様子】



【開発商品①】



桜の精油とフローラルウォーター

【開発商品②】



- ・ひのきのフローラルウォーター（左奥）
- ・クロモジのフローラルウォーター（右奥）
- ・クロモジ石けん（左手前）

アロマ作りワークショップといった体験型観光の実施による島外観光客等の需要取り込みや、島の特産品を活用した商品開発により、島内の経済及び雇用の拡大が図られた。

海士町 雇用機会拡充事業の取組事例②

事業概要等

- 事業実施年度：平成30年度～令和3年度（計画）
- 事業実施者：株式会社 隠岐桜風舎
- 事業内容：「無料観光休憩所」の改修整備事業を行い、パン菓子製造機器の設備を導入し、島の伝統的な茶菓子「白浪（しらなみ）」の製造と、島内食材資源を活用したパン商品をはじめとする商品開発事業を行う。

交付金の主な用途と雇用実績

○交付金の用途

- ・島の特産品を中心としたお土産づくりのための製造機器導入費用
- ・お土産やパン菓子をはじめとする商品開発費
- ・人件費

○雇用実績（令和4年3月末時点）

- ・5名（求人サイトでの募集、島内住民からの紹介）

事業実施状況、導入設備等

【お土産品等販売店舗】



【販売店舗内観】



【パン製造機器】



島の特産品を中心とした販売やお土産づくりに加えて、廃業を決めていたパン屋からパンづくり事業を事業承継することで、雇用の拡大だけでなく島で昔から愛される「パンの味」を残すことに繋がった。

西ノ島町 雇用機会拡充事業の取組事例

事業拡大

活イカの出荷体制強化による販路の拡大

事業概要等

- 事業実施年度: 令和元年度
- 事業実施者: 株式会社^{にほんかい おき かつぎよくらぶ}日本海隠岐活魚倶楽部
- 事業内容: 水揚げされたイカを生きのままパックできる機械を増設することにより、販路の拡大を可能とし、出荷量・売上高の増加を図る。

交付金の主な用途と雇用実績

- 交付金の用途
 - ・活イカ・活魚パック機の増設
 - ・新たな雇用者の人件費
- 雇用実績(令和4年3月末時点)
 - ・2名(知人の紹介等)

事業実施状況、導入設備等

【パック前のイカ】



【イカを生きのまま出荷できるようにするパック機を増設】



【パックされたイカ】



魚介類を生かしたまま出荷できる体制を増強したことで、関西圏・首都圏などの都市部への出荷増に対応可能となり、出荷量・売上高の増加による島内の経済及び雇用の拡大が図られた。

知夫村 雇用機会拡充事業の取組事例

事業拡大

既存商品の生産量拡大と地元食材を活用した新商品の開発

事業概要等

- 事業実施年度: 令和2年度～4年度(計画)
- 事業実施者: 個人事業主(店名: めにーでーる)
- 事業内容: 既存のケーキ店の生産設備を増強することによって、生産量の増大や販路拡大をするとともに、島内の自生植物のフクギやレモン、イチジク等を用いた特産品を開発し、観光客向けに販売を行う。

交付金の主な用途と雇用実績

- 交付金の用途
 - ・オープン・冷蔵庫・食洗機・ミキサーなど既存菓子店の生産量拡大、新商品の開発のための設備購入
 - ・新商品開発のための調査研究開発費
 - ・広告宣伝のためのポスターチラシ作成
- 雇用実績(令和4年3月末時点)
 - ・1名(親族雇用)

事業実施状況、導入設備等

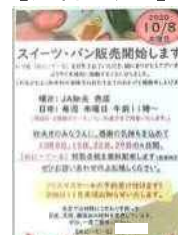
【レモン・イチジク等の増殖】 【焼き菓子・パン製造の設備を導入】



【特産品のレモンケーキ、ドーナッツの販売】



【広告チラシ】



島の特産品を活用した商品の販売を拡大することにより島内の経済及び雇用を拡大させるとともに、島内住民の利用のほか観光客の需要を取り込むことが期待される。

隠岐の島町 雇用機会拡充事業の取組事例①

隠岐の島町 IT拠点づくり事業

事業概要等

- 事業実施年度:平成29年度～平成30年度
- 事業実施者 : (有)Willさんいん隠岐オフィス
- 事業内容 : 平成27年から隠岐の島町内にテレワークステーションを開設。「離島だからこそITの可能性がある」という理念のもとに、IT開発拠点としての事業拡大を図り、IT人材の育成に取り組む。

交付金の主な用途と雇用実績

- 交付金の用途
 - ・IT開発拠点整備に係る備品購入費
 - ・システムエンジニアの採用に係る人件費、教育訓練費
- 雇用実績(令和4年3月末時点)
 - ・6名(ハローワークによる求人)

事業実施状況、導入設備等

【事務所】



【隠岐高校IT人材育成研修の様子】



▶ 地元高校への人材育成事業の他、島内でシステム開発案件が担える開発チームを作ることにより、システム開発を担える人材の採用、育成につながった。

隠岐の島町 雇用機会拡充事業の取組事例②

観光客同士が交流しやすく、個人客にも対応したホテルの開業

事業概要等

- 事業実施年度:令和2年度
- 事業実施者 : 株式会社B-Stone Garden
ビーストーン ガーデン
- 事業内容 : フリースペース併設のレストランを開業することにより、観光客同士が交流できて過ごしやすい快適な空間を提供するとともに、個室を整備してビジネスや個人客などの需要取り込みを図る。

交付金の主な用途と雇用実績

- 交付金の用途
 - ・ホテルの客室、レストラン等設備の導入費
 - ・チラシ、店頭看板作成等の広告宣伝費
- 雇用実績(令和4年3月末時点)
 - ・4名(ハローワークによる求人)

事業実施状況、導入設備等

【店舗外観】



アウトドア体験やキャンプが可能

【レストラン・フリースペース】



観光客同士の交流の場の提供

【客室】



出張・ビジネスや個人客に対応した個室も整備

▶ 新たな観光スタイルを取り入れ、島外観光客の需要取り込みによる交流人口の拡大や、閑散期はビジネス・個人客などの需要を取り込むことで、安定した経営及び島内の経済、雇用の拡大を図った。